

自己評価報告書

平成23年4月20日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究 (B)

研究期間：2008 ～ 2012

課題番号：20330045

研究課題名 (和文) 新経済地理学に基づいた、規模縮小時代の都市・地域政策の研究

研究課題名 (英文) Research on the urban and regional economic policies based on the new economic geography in the era of a shrinking economy

研究代表者

高橋 孝明 (TAKAHASHI TAKAAKI)

東京大学・空間情報科学研究センター・教授

研究者番号：30262091

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・応用経済学

キーワード：地域経済学

1. 研究計画の概要

本研究は、経済の規模が縮小する時代に固有の都市・地域経済問題を考え、それらの問題の解決に資するような政策的インプリケーションを、新経済地理学の枠組みから導き出すことを目的とする。具体的にどのような問題を扱うかは研究を進めながら検討する。たとえば以下のような問題が考えられる。

(1) 都市内空間構造の再編

経済の規模縮小時代においては、規模拡大の時代と異なる都市構造が求められる。本研究では、経済学の観点から、規模縮小時代におけるあるべき都市内空間構造を探究する。

(2) 輸送を担うインフラストラクチャー投資の諸問題

輸送インフラストラクチャーは、経済活動の立地に影響を及ぼす。したがって、国際輸送についても、国内輸送についても、それをどう整備していくかはひじょうに重要な問題である。新経済地理学の分析枠組みを用いて望ましい投資のありかたを分析し、政策的含意を導く。

(3) 都市部と地方の財政上の不均衡の問題

新経済地理学は、経済活動の集積に伴う利益と不利益を考え、それらがちょうどバランスするような、最適な集積の水準に着目する。都市部と地方の財政上の不均衡を考える際には、この最適水準を規準にする必要がある。

2. 研究の進捗状況

これまでに行った研究の成果は、次のように要約できる。まず、さまざまな都市・地域経済問題をとりあげ、何がどう問題であるのかを調べた。ついで、新経済地理学の成果を整理し、それぞれの問題に応用できるような基礎的枠組みを構築した。そして、その枠組みに則って問題の要因を明らかにし、とるべき経済政策を考察した。とりあげた問題は多岐にわたるが、代表的なものについて研究内容をまとめると、以下のようになる。

(1) 都市内空間構造の再編

中心市街地活性化のためにどのような政策が有効かを見るため、都市内における商業集積がいかなる要因によって形成されるか、理論的に考察した。新経済地理学の概念枠組みを用いて大都市における中心市街地と郊外のサブセンターの関係を明らかにし、中心市街地衰退の問題の本質的な原因を探った。また、消費者が商業中心地に立地している商業施設について完全な情報をもたないことが、商業集積にどのような影響を及ぼすか、理論的に検討した。

また、自動車に対する公共交通のアクセシビリティの向上が、自動車志向型都市構造を是正する上でひとつの重要な政策となり得ることを示した。

(2) 輸送を担うインフラストラクチャー投資の諸問題

輸送費と経済活動の地理的分布の相互依存関係を明らかにした。

さらに、一国の経済の効率性から見て、輸送セクターがどのような大きさであるべき

か、考察した。そして、望ましい大きさに誘導するために、どのような政策が求められるか、分析を行った。

(3) 都市部と地方の財政上の不均衡の問題
地域間の効用の差異がどのような水準になっているかを調べた。

3. 現在までの達成度

「①当初の計画以上に進展している。」

理由：下記に示すように、3年間で多くの業績を出している。とくに、雑誌論文に関しては、*Journal of Urban Economics*, *Journal of Regional Science and Urban Economics*, *Economic Theory* といった国際的な査読付き雑誌に10篇もの論文を掲載している。

4. 今後の研究の推進方策

今後も国際的専門誌への論文掲載を目標に、いっそう研究を進める。なお、本研究はそれぞれの研究代表者・分担者による自律的な研究を中心に据えているが、ワークショップや研究会を通じて全体を俯瞰することも考えている。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計30件)

(1) Takahashi, T., “Directional imbalance in transport prices and economic geography,” *Journal of Urban Economics*, 69, 92-102 (2011) 査読有.

(2) Tabuchi, T.; J.-F. Thisse, “A new economic geography model of central places,” *Journal of Urban Economics*, 69, 240-252 (2011) 査読有.

(3) Pflueger, M.; T. Tabuchi, “The size of regions with land use for production,” *Regional Science and Urban Economics*, 40, 481-489 (2010) 査読有.

(4) Picard, P. M.; T. Tabuchi, “Self-organized agglomeration and transport costs,” *Economic Theory*, 42, 565-589 (2010) 査読有.

(5) Tabuchi, T., “Self-organizaing marketplaces,” *Journal of Urban Economics*, 66, 179-185 (2009) 査読有.

(6) Behrens, K.; T. Tabuchi et al., “Beyond the home market effect: Market size and specialization in a multi-country world,” *Journal of International Economics*, 79, 259-265 (2009) 査読有.

(7) Mai, C.-C.; S.-K. Peng; T. Tabuchi, “Economic geography with tariff competition,” *Regional Science and Urban Economics*, 38, 478-486 (2008) 査読有.

[学会発表] (計12件)

(1) 後澤慧・牧山正男・高橋孝明、「滞在型市民農園の費用対効果分析」、農村計画学会2010年度秋季大会、2010年12月12日、弘前大学.

(2) 高橋孝明、「Agglomeration due to the imperfect information revisited」、応用地域学会第24回研究発表大会、2010年12月5日、名古屋大学.

(3) 河端瑞貴、「保育所の空間ミスマッチ」、応用地域学会第24回研究発表大会、2010年12月5日、名古屋大学.

(4) 高橋孝明、「Directional imbalance of transport prices and economic geography」、応用地域学会第23回研究発表大会、2009年12月13日、山形大学.

(5) 朝日ちさと、Hikino, S.、金本良嗣、「Consumption side agglomeration economies in Japanese cities」、応用地域学会第23回研究発表大会、2009年12月13日、山形大学.

(6) Behrens, K.; Y. Kanemoto et al., “The Henry George theorem in a second-best world,” North-American Regional Science Council Meetings, 2009年11月19日、サンフランシスコ.

[図書] (計3件)

(1) 佐藤泰裕・田淵隆俊・山本和博、『空間経済学』、有斐閣、2011年、219ページ.

(2) 森地茂・金本良嗣、『道路投資の便益評価-理論と実践』、東洋経済新報社、2008年、372ページ.

(3) 黒田達朗・田淵隆俊・中村良平、『都市と地域の経済学』、有斐閣、2008年、338ページ.